

月刊  
JMITU

# アノコノカ

新型コロナ対応版



コロナ禍で  
三密さけても  
ひとりじゃないよ

6月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガグループ分会 2021年発行

No.438

## 東京五輪開催ではない

## 今一番必要なのはコロナ対策

緊急事態宣言がとけ、東京の感染者が再び増加するもと、リバウンドの傾向だと言う専門家の見解がある中、東京五輪が開催されようとしています。

メディア各社の世論調査で、東京五輪開催による新型コロナウイルスの感染再拡大への不安が8割超となっています。このまま強引に開催を進めて無事閉会を終えたとしてもその後の日本感染者は爆発するのが目に見えて分かります。

オリンピックを開催しないで損失を出すより、開催を行った後のコロナ拡大による経済的損失の方が莫大な額になることは専門家の話でも出ています。

菅首相が主張する五輪の「安

全・安心な大会の実現」はどこをどうしたらそのようなようになるかが分かりません。

最近でも、東京オリンピックの事前合宿のため来日した、ウガンダの選手団が9人で到着された際、1人が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたのに濃厚接触者をホテルへ移動、新たに1人が新型コロナウイルスに感染したことが確認された。と言う話を聞くとこれからこのような選手団がたくさん来ることを思うと、とても水際対策など出来るとは思えません。

## オリンピック開催よりワクチン接種拡大を！

ワクチン接種開始から「2カ月後」を見ると、日本では人口の1%しか接種が行われていません。それに対し、他国の到

達には、イギリス19%、アメリカ11.7%、カナダ2.6%、ドイツ4.8%です。日本が遅い最大の要因は、日本政府がワクチンの購入・供給に失敗したことです。

現場にワクチンが出回りしたのは5月の連休後となり、2〜4月に進められるはずだった、医療従事者や高齢者への接種も大幅に遅れてしまい、菅政権は、「高齢者の2回接種を7月末までに終える」と突然打ち出すなど、裏付けのない期日を現場に押しつけ、予約の殺到や打ち手不足への対応をひたすら自治体任せにするなど、無責任な対応に終始し、現場を大混乱させました。

セガサミーでも職域接種が始まろうとしています。先日河野担当相が新規受け付けを一時停止。再開のめどは立っていません。実際の希望に対して

ワクチンの必要数が間に合っていないのではないか？7月には供給が急減するのではと言われています。

## 東京都議選、国政選挙 投票に行こう！

政治が民意とは全く違う方向に動いてしまっています。なぜ民意が反映されなくなってきたのか、ひとつは投票率の悪さがあります。

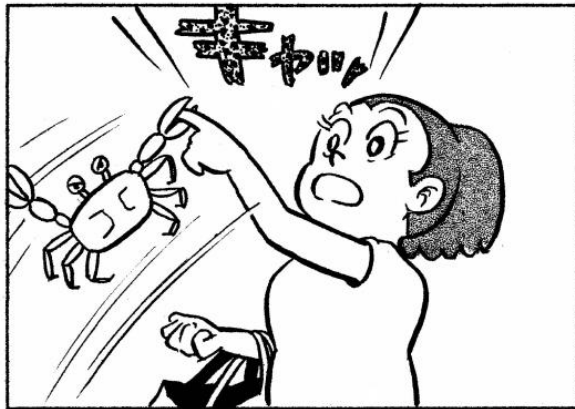
1票ぐらいじゃ変らないでしよと言われるですが、1人1人がその考えでは何も変わりません。選挙権は、誰もが平等に持った権利です。

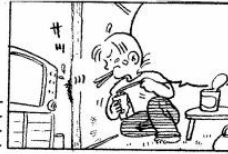
民意が反映される政治に変えていきましょう。



# 4こま漫画

川崎よしき





仙洞田一彦

ほぼ一年半、コロナ禍の下で暮らしたことになる。

コロナでマスクが必需品になったが、流行初め、たちまち店頭からマスクが消えた。

咽喉があまり丈夫ではない私は、数年前から、乾燥する冬はマスクが手放せなかった。

だからコロナで店からマスクが消えても、私の手元には買い置きがいくらあった。それがなくなったら買えないものだから、手元にあるマスクを大切に使用できるを得なかった。使い捨てなどできない。同じマスクを一週間、あるいは一ヶ月くらい使っていた。そんな使い方でマスクの用を

果たしていたかどうかは分からない。

鼻に当たるところに、汗の汚れがついて茶色っぽくなっていた。唇の当たるところには、食べかすらしいものがついていた。何度クシャミしても、交換しないからだ。それでも、他人からすると汚いマスクでも、マスクなしよりは安心感を与える用をなしていたのではないか。

まもなくマスク警察、自粛警察のような言葉が現れた。マスクをしていないと、どんな禍に巻き込まれか分からなくなかった。切れやすい人であるかどうかは、外見からは分からない。付き合いが以前からあれば、あの人は切れやすいから注意しなければと思うが、街ですれ違う人は分から

ない。

マスクをしましょう。手を洗いましょう。密を避けましょうと、毎日聞かされていると、マスクなしの人を見るとそれとなく避けるようになった。電車で、マスクなしの人が隣に座ると、席を立って別なところに移ったりした。さらにその期間が長くなってくと、マスクなしの人を見ると腹が立つようになった。声に出したら大変だから、内心で言葉になった。「常識のない奴だ」「いい年をして、分らないのか」などと。

駅ビルを出て、空を見上げたら、もう降りそうもなかった。バスは止めて歩くことにした。先ほどの土砂降り、強風、黒い雲が嘘のように青

空が広がっていた。代わりに、締め付けるような蒸し暑い空気が支配していた。

「マスクを外しましょう」「マスクを外しましょう」と呼びかけている自動車が止まっていた。屋根の上に前後に向いたスピーカーがついていて、そこから聞こえてくる。

瞬間ひらめいたのは、もし私がいまコロナに感染していたら、マスクを外してその宣伝カーのそばに行つて、乗っている人間に話し掛け、感染させようかということだった。そう思つて思い出した。

やはり一年半くらい前だろうか。居酒屋だか、一杯飲ませる食堂なのか忘れたが、その店に入って「俺はコロナだ」と叫んでいた男が捕まったことがあった。駅前の「マスク

を外しましょう」に反応した  
自分もその男と五十歩百歩か。  
暑さに苦しい思いをしてマス  
クをしている自分。コロナの  
危険を認めず「マスクを外し  
ましょう」と呼びかける。そ  
んなにマスクを外させたいん  
なら外してやる。しかし、巻  
き添えにしてやる。

叫んだ男が実際にコロナに  
罹っていたかどうかも忘れて  
しまったが、鬱屈したものが  
あつたに違いない。近くに  
あるのは誰でも巻き添えにし  
てしまおうという気持ちで、  
自棄になっていたことをうか  
がわせる。

少なくとも一年前自肅警察  
の報道を聞いていた時は、「い  
やがらせ」をしている方を責  
めていた私だ。帰省していた  
人の家に貼り紙をしたりする

報道に眉をひそめていた。一  
年半もマスクをしましようにと  
呼びかけられていると、自分  
も「警察」になってしまつて  
いたのか。何度も何度も繰り  
返し耳から注ぎ込まれると、  
気持ちも変化してしまうらし  
い。

不要不急の外出は控えてと  
か、飲食店の酒禁止など、そ  
れ程自分の生活に響かない自  
肅生活と思っていたが、一年  
半の間にじわじわ、じわじわ  
と追い詰められているうち、  
変えられてしまったんだろう  
か。

にじみ出る汗を手の甲で拭  
い、見上げると「TOKYO2020」  
と書いてある旗が、雨水を含  
んだままポールにからみ付い  
ていた。